

1. 実況上の着目点

① 500hPa 5700m付近のトラフ対応の前線を伴う低気圧が東シナ海を北東進、近傍で猛烈な雨を解析し、発雷を検知。

② 本州付近の高気圧が東南東へ移動。北～東日本は、この高気圧に覆われ、広く晴れている。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の東シナ海の前線を伴う低気圧は、次第に500hPa 5640m付近で-15°C以下の寒気を伴うトラフに対応しながら発達し、25

日朝には九州付近へ進み、26日朝には伊豆諸島付近に達し、26日夜にかけて日本の東へ進む。前線は25日夜にかけて南西諸島付近を通過し、26日夜までに小笠原近海へ進む。1項②の本州付近の高気圧は日本の東へ移動後、26日夜にかけて北海道付近へ移動する。前線や低気圧に向かう850hPa 相当温位327K以上の下層暖湿気や上空の寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴う非常に激しい雨の降る所がある。九州南部・奄美地方では25日は、伊豆諸島では26日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷、竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。沖縄地方でも25日は落雷、突風、局地的な激しい雨に注意。低気圧と北海道付近へ移動する高気圧との間で気圧の傾きが急となり、非常に強い風が吹き、波が高くなる所やしける所がある。東～西日本太平洋側では26日にかけて、強風、高波に注意し、伊豆諸島では26日は高波に注意・警戒。

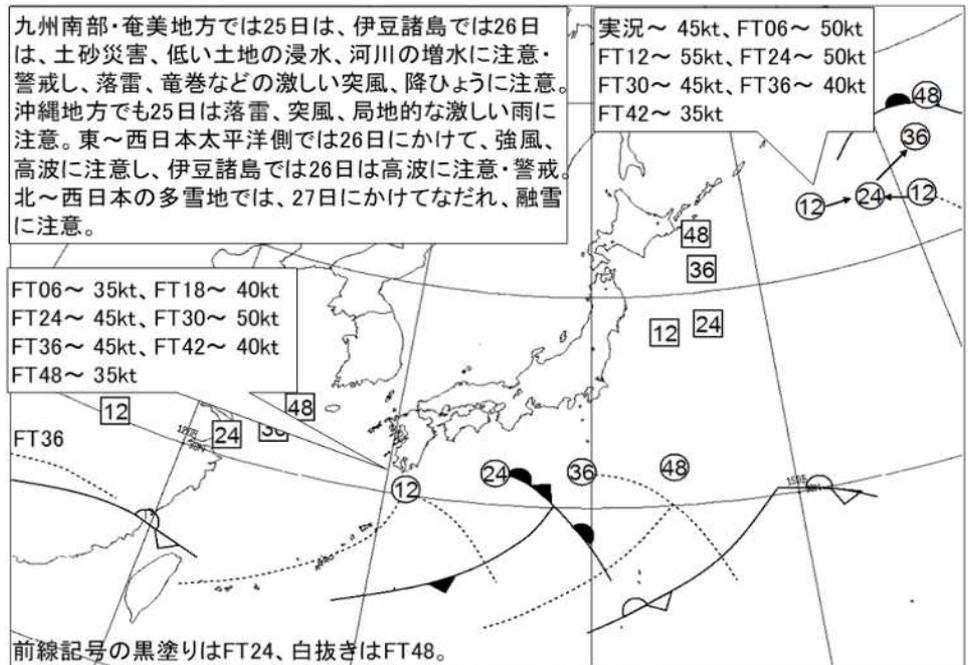
② 27日は、2項①の日本の東の低気圧は、ゆっくり東北東進。2項①の北海道付近へ移動する高気圧は、千島近海へ移動する。500hPa 5400m付近で-27°C以下の寒気を伴うトラフが沿海州付近から日本海へ進み、日本海にはトラフ対応の低気圧が発生し東北東進。南西諸島付近では気圧の谷が発生する。気圧の谷に向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となる可能性に留意。北～西日本では、850hPaで平年差5°C前後まで昇温する影響で、雪解けが進む。北～西日本の多雪地では、27日にかけてなだれ、融雪に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項①の日本の東へ進む低気圧の位置や勢力と2項②の日本海で発生する低気圧の位置の予想は不確実性が大きいことに留意。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

② 波浪(明日まで)：伊豆諸島5、関東・東海・近畿・四国4、九州北部・九州南部・奄美3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図